

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア小坂 グループホーム		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716番地1		
自己評価作成日	平成27年2月6日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2192800072-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざす優しさ、安らぎ、信頼をモットーに職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。掃除のお手伝いや、おやつ作り等を一緒に行い利用者様の残された力が、発揮できるよう支援していきます。また、住み慣れた地域の恵まれた社会資源と自然環境の中で、四季折々の行事を行い生き生きとした馴染みある生活が送れるよう努力します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、恵まれた立地環境にあり、前を国道が通り、裏側には、飛騨川の清流が眼下に流れている。その対岸の山裾をJR高山線が走り、利用者にも見慣れた情景が広がっている。建物は、最新の設備を整え、広い館内は落ち着いた色合いを施し、利用者の気持ちや和み「ここは住み易い」と笑顔で語り合っている。併設の事業所とは、自由に行き来し、行事は合同で開催して、多くの住民を招き、地域交流も活発である。利用者は、安心な医療と手厚い介護、そして、住み慣れた地域で、馴染みの人々と触れ合いながら、生き生きと快適な日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に介護サービスが提供できるように、職員会議やミーティング、また名札に記入し各自確認を行っている。	理念は、「地域に根ざす、優しさ・安らぎ・信頼」と掲げている。職員の名札に明記し、会議や研修の機会に、その意義を確認をしている。職員は、利用者との信頼関係を築き、安心して快適な生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には、地域のボランティアの方々に訪問していただき踊りや歌など利用者様に楽しんでいただいている。	事業所の行事は、地区の回覧板で参加を呼びかけている。ボランティアの訪問や保育園児と触れ合う機会も多い。地元の風習でもある節句の「がんどうち」や運動会等、子どもたちや住民との交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成委員を通じて、地域での困り事等の相談を受け、専門職としてのアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で提案いただいた件について実行できるものから実施している。当施設の情報誌の地元地域への回覧・ボランティアグループの紹介や行事への参加をして頂いている。	会議は、隔月に開き、運営の実情を報告している。行政担当者から、制度改革の説明を受けたり、地域へ情報誌の配布やサロンの活用、さらには、先進的な地域福祉の拠点づくりなどで議論を重ね、運営に反映させている。	運営推進会議へは、できるだけ多くの家族が参加できるように、その促進と環境づくりに期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に行政と連絡を取り合い、協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修に取り組んでいる。また、日々のミーティングなどで取り上げ身体拘束をしない介護を心掛けている。	身体拘束禁止や虐待防止を徹底し、職員間で周知をしている。利用者との信頼関係を築き、安心感を与える言動に努め、心理的にも拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会において虐待防止を意識するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設に成年後見制度の利用者が入居されていますが、職員でこの制度を熟知出来ていないのが現状です。該当ケースが発生した場合はご家族に社協、司法書士、社会福祉士等に仲介しスムーズに対応できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、内容などについて十分に説明し、納得していただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の担当職員が意見や思いを聞きやすいように日頃からコミュニケーションを意識し、信頼関係の構築を心掛けている。また、家族には月1回の通信誌により要望を伺っている。	家族へは、毎月、通信誌(おたっしや倶楽部)を送り、意見・要望等を確認している。近況報告も同紙に書き込み、意思の疎通を図っている。また、面会時には、本人・家族を交えて話し合い、そこでの意見を、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議などで職員から意見や問題を聞き、解決策などを話し合い、方針を決めている。	月例の職員会議で、意見・提案等を検討している。仕事の段取り、インフルエンザ予防や職員間の意思の疎通の回り方など、気づきを出し合っ、サービスの改善と運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や勤務態度を把握し、評価している。研修などにも参加しやすいようシフトなども考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を設けて職員のスキルアップを目指している。職員自身にも講師をしてもらい、自己学習の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同法人の3事業所の管理者・主任級職員で定期的に勉強会を実施している。また、近隣の療養病床兼老健施設へは訪問調査を交互に実施しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より本人の生活情報を家族より聴取し、入所後も本人の要望や思いを話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されるご家族がご本人に対し困っている事、不安に思っている事、要望等をしっかり把握し、入所前から信頼関係がもてるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の相談を受けてから、何が必要か、本人や家族から十分なアセスメントを行い、適切な支援ができるように心掛け、サービスに反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格等に配慮しながら職員は利用者と同じ目線・立場で介護しているよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向や思いについてご家族に意見を伺う事で、ご家族も共に支援しているという関係を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接や訪問時はいつでも来ていただけるよう明るい雰囲気作りに努めている。ご本人が馴染みのある場所にドライブに行く等外出支援を行っている。	職員は地元住民が多く、利用者と顔見知りも多い。併設の小規模多機能型へも行き来し、馴染みの関係を支援している。思い出のある公園や神社、四季の花見などへ、ドライブを兼ねて出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り良好な関係が保てるよう配慮している。行事などでは各フロアの利用者同士が触れ合う場を設けて交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し、他の施設へ入所された時など、サマリーなど情報提供を行い、ご本人の介護に役立つよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの訴えや意向に耳を傾け把握に努めている。本人の意向に沿えるようにカンファレンスで検討し、対応している。	日々の会話や言動から、思いや意向を把握している。困難な人は、表情や訴えに耳を傾け、思いを汲み取っている。生活の質を落とさず、その人らしい暮らしができるように、自立を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやサマリーを活用したり、ご家族の面会時にお話を伺ったりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が訪室し、日々の過ごし方や心身の状態を把握したり、介護記録や申し送りノートを活用し、状況を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望や以降、職員からの意見を元に介護計画を作成しているカンファレンス実施後はケアの在り方を統一出来るように努めている。	本人・家族の意向を確認し、職員の意見や気づきを取り入れ、検討を加えて、介護計画を作成している。定期的にカンファレンスを行い、下肢筋力低下を防ぎ、残存機能が維持できるよう、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に介護日誌や特記録に記入する事で職員間で情報を共有したり、ケアの実施や介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望などの意見を尊重し、その時の状況に応じて柔軟な支援を行えるように努めます。		

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、美容院・床屋やお寺の住職による講話を催している。行事でも地域のボランティアに依頼し、色々な催し物を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診を行って頂いている。また体調の変化に合わせて常時、電話にて連絡をとり状況に合った医療を提供できるよう努めている。	かかりつけ医を継続し、希望者は、協力医の診察を受けている。かかりつけ医への定期受診は、家族が行い、状態の変化に応じて、協力医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。緊急時は、総合病院へ職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者様のバイタルを測定し、体調の変化や職員の気づきを看護師に報告し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換等は出来るだけ早期にサマリーや電話等で連絡を取り合っている。そしてその情報をスタッフ間で共有し、早めに準備を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やその時の状況に応じて意向調査を行い、家族との意向確認を行なっている。看取りの時期には、ご家族と十分話し合い家族が望まれる生活ができるように支援している。	重度化や終末期の方針は、入居時と状態の段階に応じて、家族に説明をしている。終末期には、看取り介護医療同意書を家族と交わし、さらに、関係者で方針を共有し、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議などで急変時の対応などを学習している。また消防署の方に来ていただき心肺蘇生の方法等の講習会を行っていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。運営推進会議の地元委員を窓口として協力をお願いをしている。また、周辺での災害時は避難所としても利用していただくよう承諾している。	防災訓練は、年に2回実施をしている。初期消火や通報、シューターでの脱出、心肺蘇生などの訓練を行い、実践力を身につけている。建物は耐震構造で、スプリンクラー完備の最新設計である。地域の災害時の避難所として、受け入れを了承し、協力体制をとっている。	各種災害に備えた、マニュアルの整備と備蓄の確保、ハザードマップを確認し、ホームに必要な災害対策の取り組みに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護の中で一人ひとりの人格を大切に にした接し方を心掛けている。 言葉遣いなど職員会議で話し合い確認している。	「職員同士の会話を、利用者は聞いている」と、 常に意識し、不用意な会話はしないよう徹底して いる。言葉かけは、誇りを傷つけないように、そ して、丁寧に優しく接し、利用者が間違っ たことを言ったとしても、それを否定しない ように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、少しでも本人様の希望 が引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援 している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛 けている。利用者様の体調や状態などを考 慮するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	着替えの準備を利用者と共におこなったり、 外出して好みの衣類の購入などの支援を 行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来る範囲で手伝って頂 いている。月1回の手作りおやつや旬の食事 作り等一緒に行っている。	利用者は、食事の準備や味見、片付けなどを、 手伝っている。職員は、食事介助と見守りをしな がら、楽しい食事の雰囲気づくりに努め、満足 のできる食生活を支えている。月に1回は、おやつ や旬の食事づくりの日を設けている。	職員と利用者が、一緒に食べる食事会 の日を、できるだけ多く設け、食べる楽 しさと、美味しさを共有できるように期待 をしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個人記録やバイタル表に 記録し、把握している。個々の嚥下状態や義 歯の状態などに応じて、食事形態を工夫し提 供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。自 分で出来る方も声掛けや見守りを行ったり介 助の必要な方は職員が行っている。また、歯 科衛生士の方に口腔内のチェックを行って もらっている。		

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックし、個別に必要な支援を行い、一人ひとりの自立に向けての介助をしている。	個々の排泄パターンに合わせ、こまめにトイレへ誘導し、自立につなげている。失禁や状態に応じて、おむつにパッドを組み合わせている。通常は、リハビリパンツで過ごし、おむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握しながら看護師の指示に基づいて内服薬及び座薬を使用している。水分摂取やヤクルト及び牛乳などの提供を行い便秘予防への対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせ菖蒲湯・ゆず・かりん風呂につかって頂き、楽しんで頂いている。	入浴は、週に2回以上とし、希望者には柔軟に応じている。嫌がる人には、入浴と言わず、誘い方を工夫している。脱衣室のトイレは、カーテンで仕切って羞恥心に配慮をし、季節によって、ゆず湯、菖蒲湯などの楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の清掃等も利用者に合わせ、日中でも休みたいときに休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬忘れや誤飲がないよう、職員会議で話し合ったり、スタッフ同士確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを職員と一緒にやっている。カラオケや散歩など本人の意向に沿って、楽しみ事が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴に出掛けるようにしている。短時間でも外の空気を吸って少しでも気分よく過ごせるよう支援している。また、季節の花木を見学したり、リフレッシュ出来るよう外出の計画を立てて行っている。	事業所は、広大な敷地の中にあり、機能訓練を兼ねた散歩コースでもある。途中、休憩や外気浴ができるベンチを設けている。普段行けない所へは、ワゴン車で出かけたり、個別の外出にも応じている。	

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出にて喫茶店で好きな物を頼んだり、使えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際に電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・安全に心掛け、四季を感じて頂けるよう、花や壁絵を替えたりして、明るい空間作りを心がけている。	リビングは広々として、西南から陽光が注いでいる。季節の花や雛壇、土雛も飾っている。ペレットストーブを置き、ソファを要所に配置して、幅広の廊下はゆとりがある。トイレや浴室も広く、利用者が安心して移動できる造りである。全体を落ち着いた色合いで統一し、快適な生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて横になって休んで頂けるようにしている。また、座席は気の合う利用者様同士が座って頂けるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、写真や絵など飾るなどして環境にも工夫をしている。	居室には、テレビボード型の大きな棚を備えている。馴染みの品々を、自由に持ち込み、好みに配置をしている。自作の塗り絵や折り紙作品、書き初め、孫の写真などを飾り、居心地のよい居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場面に応じ、手すりを設け安全かつ安心して行動して頂けるようにしている。		